

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス 北風と太陽 (児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	2026年1月26日		～	2027年2月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数)	0
○従業者評価実施期間	2026年1月26日		～	2027年2月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2027年2月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童全員を安全に見守ることができるように1F、2Fに活動場所や職員をそれぞれ配置し、活動スペースを使い分けている。	レクリエーション活動の内容の偏りや固定化を避ける為に毎月MTを行い、子どもたちの目線に立って楽しめる場所・内容を計画し、実施している。	SNS等を使い、新しい場所を定期的に模索しながら挑戦していく。 また他事業所と連携を図り、良かった内容や場所は共有していくことで様々な活動体験を積み重ねていく。
2	子どもたち個々に合わせた課題や専門的な支援を行い、全職員で共通認識の上、取り組んでいる。 また成功体験の共有やそれぞれの苦手分野を把握し、支援向上を図っている。	送迎職員が固定されないように送迎を組み、全職員が保護者と安心かつ円滑にコミュニケーションが取れるようにしている。	情報共有の"質"を上げるための仕組みや環境づくりを積極的に行っていく。 また職員間でロールプレイを積極的に行い、臨機応変に対応できる力を高めていく。
3	欠席振替を積極的に行い、契約日数上限まで利用できるような人員配置を工夫し、満足度に繋げている。	まずは挑戦してみる！という子どもたちの気持ちを大切に、職員一人ひとり楽しみ、一緒に成長していくという意識を持ちながら環境設定を行っている。	子どもたちそれぞれの課題に着目し、随時話し合いの場を設け、共通認識を図っていく。 また色々な視点で見ると共有していくことで多方面からアプローチを可能とし、個々の成長に繋げていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一軒家(賃貸物件利用)である為、扉や死角が多く、バリアフリー化が難しい。 また1つのフロアのスペースが狭く、活動内容が制限されてしまう事がある。	一軒家(賃貸物件利用)である為、フロアが分かれてしまい、バリアフリーへの設備工事ができない。	可能な限りのバリアフリー化を行い、定期的に事業所内の安全確認を行う中で修理、改善に努める。 また利用人数や個々の特性をしっかりと把握し、死角となる部分に職員を配置していく。
2	関係連携機関との連携不足の為、正しい情報が入ってこないことがある。	サビ管が参加することが多く、休みの時に対応できないことがある。 また認識の違いから報連相が確実に行えない事が多い。	全職員で対応できるように作業の分担化を行う。 また関係連携機関との関係性の再構築を行っていく。
3	男性職員が在籍していない為、外出時のトイレや着替え対応に制限がでてしまう。 (現状:多目的トイレを使用している)	男性職員の求人応募が少ない。 現段階では利用児童の過半数が低学年または排泄が自立している為、多目的トイレで対応できてしまっている。	各事業所での男性職員の確保や積極的な求人採用、イベントへの参加を検討していく。

保護者向け

児童発達支援評価表

(保護者の皆さまへ)

○ 本評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所を利用するお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「わからない」のいずれかに○を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。

公表日 2026/2/27

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	0	0	0	0	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	0	0	0	0	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	0	0	0	0	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	0	0	0	0	
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	0	0	0	0	
	6 事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	0	0	0	0	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。	0	0	0	0	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	0	0	0	0	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	0	0	0	0	
	10 事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	0	0	0	0	
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	0	0	0	0	
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	0	0	0	0	
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	0	0	0	0	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	0	0	0	0	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	0	0	0	0	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	0	0	0	0	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	0	0	0	0	
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	0	0	0		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	0	0	0	0
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	0	0	0	0
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	0	0	0	0
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	0	0	0	0
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	0	0	0	0
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	0	0	0	0
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	0	0	0	0
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	0	0	0	0
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	0	0	0	0
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	0	0	0	0
	29	事業所の支援に満足していますか。	0	0	0	0

※1「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、子ども本人がこの部屋で何をするのがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3「児童発達支援計画（個別支援計画）」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの発達状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの障害の特性やその特性を踏まえた子どもへの関わり方を学ぶことにより、子どもの行動変容することを目標とします。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス 北風と太陽 (児童発達支援)		公表日		2026年2月27日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	2	利用児童の様子を見ながらそれぞれに合ったスペースを確保している。また人数が多い時は1F・2Fに活動場所を分け、スタッフを十分に配置し、トラブルやけが防止に繋げている。	貸貸物件利用の為、利用者が10人を超えてくると圧迫感がある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		利用人数の調整・職員配置を利用児童と職員それぞれに負担がかかりすぎないように配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	部屋ごとに目的意識を持たせる工夫をしている。階段に落下防止ネットを設置したり、けが防止のために机の角にクッションをつけている。また扉を外し、視覚から情報が入りやすいようにしている。	貸貸物件利用の為、バリアフリーへの設備工事が難しい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		毎日清掃を実施し、定期的に玩具の消毒・換気を行っている。また活動によって家具の配置を変えてレクリエーションなどを行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		必要に応じて個別で部屋を確保している。 ※例：クールダウン、聴覚過敏等		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1	毎月全体でミーティングを実施し、様々な事業の振り返り、良かった支援方法等の共有を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		評価表を配布し、支援の質の向上に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		毎月のミーティングの他にも始業前や帰りの送迎後に情報共有の時間を設けている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2	他店舗の管理者同士で、定期的なミーティングを行い、改善点を話し合っている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	定期的開催される外部での研修を受け、参加者は他スタッフへフィードバックし、得た情報を共有している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		定期的に保護者面談を行い、それぞれのニーズや課題を確認している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		日々の情報共有や意見交換の中で改善策を見出し、共通認識に繋げている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		毎月のミーティングで個別支援計画書に記載された達成目標や支援内容を確認し、情報を共有している。その都度支援計画の見直しを行い、発達に応じた支援内容に改善している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	毎朝ミーティングを実施している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		毎月ミーティングを行い、それぞれ意見を持ち寄り、スタッフ全員で検討し、最終的なプログラムを決定している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		発達段階や季節感、ねらいなどを考慮し、活動内容が重ならないようにアレンジを加えながら工夫している。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	ひと月のなかで個別活動と集団活動をバランスよく取り入れ、それぞれに合った支援を行えるようにスモールステップを意識している。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝ミーティングを実施し、保護者からの伝達や最近の様子などを報告する申し送りの時間を設けている。		

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	送迎後に当日の児童の様子や保護者との会話を共有し、今後の対応策や情報共有を図っている。また報告事項や悩み事等あれば、スタッフ間で情報共有し、大きな問題や連絡事項等迅速な対応・解決に努めている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1	毎日必ず記録に残し、ミーティングでその都度共有し、早期解決・改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		ガイドラインに基づいた計画書を作成し、支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	児童発達支援管理責任者が出席している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	5		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	4		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	4		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	5	定期的開催される外部での研修を受け、参加者は他スタッフへフィードバックし、得た情報を共有している。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		7		昨年に続き、連携を取ることが出来なかった。少しでも交流の場を設け、刺激を受けられるように各相談事業所に向き、きっかけを作っていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		定期的な家庭訪問を行っている。また送迎時にコミュニケーションを取りながら家庭のニーズを支援内容に取り入れている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		7			
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1	契約時に必ず伝えて、保護者と一緒に確認を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		定期的な家庭訪問を行っている。また送迎時にコミュニケーションを取りながら家庭のニーズを支援内容に取り入れている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		モニタリングや支援計画書を説明し、保護者に確認を取り、同意をいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		送迎職員が固定されないように配慮し、毎日の送迎時に保護者との信頼関係の構築を図り、話しやすい雰囲気を作れるように努めている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		7		今年度は実績はなし。家族参加OKのイベントは行うことができたが、保護者同士の交流は出来ていなかった。
40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		保護者からの連絡があった時はその都度迅速に対応している。また保護者からの直接的な相談がなくても、送迎時に些細な変化を確認し、スタッフ同士で共有している。		
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		月に1回通信を発行している。またSNS (Instagram) を活用し、活動内容や様子を伝えられるようにしている。		

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		鍵付き書庫にて保管している。 また顔出しNGの児童を把握し、全ての書類の管理・取り扱いに気をつけている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		日頃から保護者と積極的にコミュニケーションを取り、自分が行ったコミュニケーション内容をスタッフ間で共有し、日々改善に努めている。 またそれぞれに合わせて情報伝達手段を用意し、伝え方を工夫している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6		地域交流の場がほとんどない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		それぞれのマニュアルを個別で作成・実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		毎月避難訓練の実施し、避難場所の確認を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	1	服薬同意書を配布し、その都度確認を行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	5	食物アレルギー等に関しては契約時にアセスメントを行い、職員間で共有している。	現在利用児童で食物アレルギーの事例がない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	ジョブモデルでの研修を受講している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	2		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		毎月ミーティング時に職員間で共有を行い、再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		外部での研修を受け、参加者は他スタッフへフィードバックし、得た情報を共有している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	1	身体拘束についての同意書を作成し、その都度臨機応変に対応している。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス 北風と太陽 (放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	2026年1月26日		2027年2月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2026年1月26日		2027年2月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2027年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童全員を安全に見守ることができるように1F、2Fに活動場所や職員をそれぞれ配置し、活動スペースを使い分けている。	レクリエーション活動の内容の偏りや固定化を避ける為に毎月MTを行い、子どもたちの目線に立って楽しめる場所・内容を計画し、実施している。	SNS等を使い、新しい場所を定期的に模索しながら挑戦していく。 また他事業所と連携を図り、良かった内容や場所は共有していくことで様々な活動体験を積み重ねていく。
2	子どもたち個々に合わせた課題や専門的な支援を行い、全職員で共通認識の上、取り組んでいる。 また成功体験の共有やそれぞれの苦手分野を把握し、支援向上を図っている。	送迎職員が固定されないように送迎を組み、全職員が保護者と安心かつ円滑にコミュニケーションが取れるようにしている。	情報共有の"質"を上げるための仕組みや環境づくりを積極的に行っていく。 また職員間でロールプレイを積極的に行い、臨機応変に対応できる力を高めていく。
3	欠席振替を積極的に行い、契約日数上限まで利用できるように人員配置を工夫し、満足度に繋げている。	まずは挑戦してみる！という子どもたちの気持ちを大切に、職員一人ひとりも楽しみ、一緒に成長していくという意識を持ちながら環境設定を行っている。	子どもたちそれぞれの課題に着目し、随時話し合いの場を設け、共通認識を図っていく。 また色々な視点で見て共有していくことで多方面からアプローチを可能とし、個々の成長に繋げていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一軒家(賃貸物件利用)である為、扉や死角が多く、バリアフリー化が難しい。 また1つのフロアのスペースが狭く、活動内容が制限されてしまう事がある。	一軒家(賃貸物件利用)である為、フロアが分かれてしまい、バリアフリーへの設備工事ができない。	可能な限りのバリアフリー化を行い、定期的に事業所内の安全確認を行う中で修理、改善に努める。 また利用人数や個々の特性をしっかりと把握し、死角となる部分に職員を配置していく。
2	関係連携機関との連携不足の為、正しい情報が入ってこないことがある。	サビ管が参加することが多く、休みの時に対応できないことがある。 また認識の違いから報連相が確実に行えない事が多い。	全職員で対応できるように作業の分担化を行う。 また関係連携機関との関係値の再構築を行っていく。
3	男性職員が在籍していない為、外出時のトイレや着替え対応に制限がでてしまう。 (現状：多目的トイレを使用している)	男性職員の求人応募が少ない。 現段階では利用児童の過半数が低学年または排泄が自立している為、多目的トイレで対応できてしまっている。	各事業所での男性職員の確保や積極的な求人採用、イベントへの参加を検討していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		放課後等デイサービス 北風と太陽 (放課後等デイサービス)		公表日		2026年2月27日			
		利用児童数		2026年2月27日：時点19名		回収数		19名/100%	
		チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。		14	3		2		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。		15	1		3		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。		12	2		5		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。		12	3		4		
適切 な 支 援 の 提 供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。		18			1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。		15	2		2		
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。		13	2		4		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。		14	2		3		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。		17			2		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。		19				自分達では連れていくのが困難な場所へのお出かけや体験（工場見学等）ができ、貴重な経験を積むことが出来ていると思う。	今後も活動プログラムが固定されないように見直しを行う。毎月ミーティングを行い、一人ひとりの発達段階や季節・ねらいなどを考慮し、工夫しながら計画をしていく。
11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。		8	2	5	4			
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。		18	1				
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。		16	2		1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。		10		5	4		
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。		18	1				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。		14	4	1			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。		16	3				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		5	2	3	9	前年度はイベント自体が開催されていなかった。悩みを共有できる場はほしい。	来年度はイベントが開催できるように早めに計画をし、少しでも多くの保護者に参加してもらえるように働きかけていく。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。		11	1		7		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13	4		2	送迎時の報連相がしっかりされている。	今後も継続できるように全職員で共通認識を図っていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	13	2	1	3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15	2		2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11			8		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14			5		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16			3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	2		6		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19				自宅での会話が増え、家族でお出かけ時にここ行ってみたいというきっかけに繋がっている。	今後も児童や保護者との信頼関係構築・確立の為に情報共有の徹底を行っていく。また安心して通所してもらえるように全職員で再認識を図り、満足度の向上に繋げていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	19				送迎への協力や児童のできることの範囲を広げてくれるので助かっている。	一人ひとりの可能性を広げられるように職員間で些細な事でも共有し、それぞれに合った支援を"計画・実践・見直し"していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス 北風と太陽 (放課後等デイサービス)
------	-------------------------------

公表日：2026/2/27

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		5	2 利用児童の様子を見ながらそれぞれに合ったスペースを確保している。また人数が多い時は1F・2Fに活動場所を分け、スタッフを十分に配置し、トラブルやけが防止に繋げている。	貨物利用の為、利用者が10人を超えてくると圧迫感がある。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		7	利用人数の調整・職員配置を利用児童と職員それぞれに負担がかかりすぎないように配置している。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		7	部屋ごとに目的意識を持たせる工夫をしている。階段に落下防止ネットを設置したり、けが防止のために机の角にクッションをつけている。また扉を外し、視覚から情報が入りやすいようにしている。	貨物利用の為、バリアフリーへの設備工事が難しい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		7	毎日清掃を実施し、定期的に玩具の消毒・換気を行っている。また活動によって家具の配置を変えてレクリエーションなどを行っている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		7	必要に応じて個別で部屋を確保している。 ※例：クールダウン、聴覚過敏等	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		7	毎月全体でミーティングを実施している。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		7	評価表を配布し、業務内容の見直し・改善や支援の質の向上に努めている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		7	毎月のミーティングの他にも始業前や帰りの送迎後に情報共有の時間を設けている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	1 他店舗の管理者同士で、定期的にミーティングを行い、改善点を話し合っている。	
10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		7	定期的開催される外部での研修を受け、参加者は他スタッフへフィードバックし、得た情報を共有している。		
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		7		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		7	定期的な保護者面談を行い、それぞれのニーズや課題を確認している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		7	日々の情報共有や意見交換の中で改善策を見出し、共通認識に繋げている。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		7	毎月のミーティングで個別支援計画書に記載された達成目標や支援内容を確認し、情報を共有している。その都度支援計画の見直しを行い、発達に応じた支援内容に改善している。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		7	毎朝ミーティングを実施している。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		7		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。		7	毎月ミーティングを行い、それぞれ意見を持ち寄り、スタッフ全員で検討し、最終的なプログラムを決定している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		7	発達段階や季節感、ねらいなどを考慮し、活動内容が重ならないようにアレンジを加えながら工夫している。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		ひと月のなかには個別活動と集団活動をバランスよく取り入れ、それぞれに合った支援を行えるようにスムーズステップを意識している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝ミーティングを実施し、一日の流れや保護者からの意見を全体で共有・把握し、支援の質を高めている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	送迎後に当日の児童の様子や保護者との会話を共有し、今後の対応策や情報共有を図っている。また報告事項や悩み事等あれば、スタッフ間で情報共有し、大きな問題や連絡事項等迅速な対応・解決に努めている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		毎日必ず記録に残し、ミーティングでその都度共有し、早期解決・改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		ガイドラインに基づいた計画書を作成し、支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		必要最低限の支援を行い、様々なレクリエーション内容や玩具を用意しながら自己決定力向上に繋げている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	児童発達支援管理責任者が出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	3		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		毎月関係機関に（学校等）FAXを送信し、気になる様子や変化、送迎時間の変更等状況に応じて連絡を取り合っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	4		現在利用児童が小学生からの利用がほとんどの為、実例がない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	5	定期的に開催される外部での研修を受け、参加者は他スタッフへフィードバックし、得た情報を共有している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	5		昨年に続き、連携を取ることが出来なかった。少しでも交流の場を設け、刺激を受けられるように各相談事業所に出向き、きっかけを作っていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	5	児童発達支援管理責任者が出席している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		定期的に家庭訪問を行っている。また送迎時にコミュニケーションを取りながら家庭のニーズを支援内容に取り入れている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	6		
保護者へ	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に必ず伝えて、保護者と一緒に確認を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		定期的に家庭訪問を行っている。また送迎時にコミュニケーションを取りながら家庭のニーズを支援内容に取り入れている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		モニタリングや支援計画書をもとに保護者へ説明し、確認・同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		送迎職員が固定されないように配慮し、毎日の送迎時に保護者との信頼関係の構築を図り、話しやすい雰囲気を作れるように努めている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		7		今年度は実績はなし。家族参加OKのイベントは行うことができたが、保護者同士の交流は出来ていなかった。

の 説 明 等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		保護者からの連絡があった時はその都度迅速に対応している。また保護者からの直接的な相談がなくても、送迎時に些細な変化を確認し、スタッフ同士で共有している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		月に1回通信を発行している。 またSNS (Instagram) を活用し、活動内容や様子を伝えられるようにしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		鍵付き書庫にて保管している。 また顔出しNGの児童を把握し、全ての書類の管理・取り扱いに気をつけている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		日頃から保護者と積極的にコミュニケーションを取り、自分が行ったコミュニケーション内容をスタッフ間で共有し、日々改善に努めている。 またそれぞれに合わせて情報伝達手段を用意し、伝え方を工夫している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6		地域交流の場がほとんどない。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		それぞれのマニュアルを個別で作成・実施している。	
	47	業務継続計画 (BCP) を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		毎月避難訓練の実施し、避難場所の確認を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	1	服薬同意書を配布し、その都度確認を行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	4	食物アレルギー等に関しては契約時にアセスメントを行い、職員間で共有している。	現在利用児童で食物アレルギーの事例がない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	ジョブメドレーでの研修を受講している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	4		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1	毎月ミーティング時に職員間で共有を行い、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		外部での研修を受け、参加者は他スタッフへフィードバックし、得た情報を共有している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		身体拘束についての同意書を作成し、その都度臨機応変に対応している。		